

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月3日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人 博悠会
事業所名	グループホーム エデンの丘
所在地	鹿児島市坂元町161-4 (電話) 099-247-5055
自己評価作成日	平成27年9月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年10月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節の行事(花見・ソーメン流し・合同夏祭り・コスモス見学等)や、誕生会、敬老会、食事会など家族の方にも参加の呼びかけを行い、入居者、職員と家族が一体となって楽しく過ごせるように取り組んでいる。

・朝の体操は毎日実施し、入居者の体力に応じてストレッチなど取り入れ、残存機能の低下予防に繋げている。又少なくとも1週間に1回は個人が散歩等の外気浴をすることによって、気分転換が図れるように取り組んでいる。

・地域の一員として町内会や職員が消防分団員に加入し、町内の行事(生涯学習発表会・七夕まつり、運動会、敬老会等)には利用者や職員が参加すると共に、月1回の清掃作業では、近くの公園や道端のごみ拾いを行うことで、地域の一員として活動していけるよう努力している。

・運営推進会議、家族会など定期的に実施し、御家族始め地域の方々あるいは長寿安心センター職員、関係者の方々と話を交え、ホームの現況報告し、意見、助言など頂き、日々の運営に活かせるように努めている。

・個人個人の生活のペースを大切にしつつも、日々の生活が活気あるものになるように、1階と2階の合同レクや、合同食事会などを取り入れ、入居者同士あるいは職員とのコミュニケーションが図れ、馴染の関係が図れるようにしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○鹿児島市の中心部からはやや離れた住宅街に小規模多機能ホームやデイサービスと隣接して建てられている事業所である。運営も一体的になされており、各種の行事の実施や緊急時の対応など、相互に連携・協力できる体制が整っている。敷地は日当たりも良く散策や日光浴に適した環境である。

○地域との交流は非常に活発であり、事業所が主催する夏祭りや敬老会、防災訓練等に多くの地域住民の方々に参加して頂いている。また、ボランティアの訪問、実習生の受入れも行われている。町内会にも加入して地域の夏祭り・運動会・敬老会のほか、清掃活動への参加など地域との関わりは深いものがある。

○管理者自身が職員に感謝の気持ちを持って接することを基本にして、日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、日ごろからコミュニケーションを大切にしている。日々のケアの中での対話や朝礼・終礼のほか、毎月の職員会議でもケアに関する話し合いは活発で、業務改善や利用者へのサービス向上に活かされている。また、職員間の連携も密に取れており、利用者への接し方について話し合うなど日々の関わりの中で職員と利用者が信頼関係を築き合うことを大切にしている。

○利用者の思いや意見とともに、ご家族の要望等も来訪時や家族会等で話しやすい雰囲気作りに努め、きめ細かく把握できるように努めている。特に家族会の際には多くの意見が得られるように工夫し、職員は情報共有のもと必要な場合は対応を速やかに協議してサービスに反映できるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域に信頼され人々との交流が自由に出来るように支援します」という理念をリビングに掲げ、毎日朝礼時に唱和し実践に繋げている。	ホームの理念及び基本方針、職員の行動指針である「日常の五心」に沿って、利用者の尊厳を大切に、利用者自身の立場に立ったケアの実現に日々取り組んでいる。毎日朝礼での唱和や月1回の職員会議等を通じて理念の意義の理解を深めるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、消防分団にも職員が加入する等している。又互いの催し等には、お互いに積極的に参加する事で交流が図れるようにしている。3ヶ月毎の広報紙を地域にも配布している。	ホームで開催する夏祭りや敬老会等の行事には家族や地域の方々に参加して頂いている。また、町内会に加入しており案内される地域の夏祭り・運動会・敬老会等の行事や清掃活動・生涯学習発表会に積極的に参加して交流を図っている。実習生の受入れやボランティアの訪問もあり、利用者はこれらの交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	5事業所合同による認知症に関する研修に、地域の方々にも参加を頂き、活発な意見交換がなされ、認知症に関する理解を深めることができるように働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、ホームの状況報告、評価への取り組みなどを報告すると共に、地域や家族からの情報や助言を大切に、業務の改善に取り組んでいる。	会議は、家族や民生委員、地域住民、消防・警察・地域包括センターの職員等関係者が参加して定期的開催されている。ホームの現況報告や行事・問題点等について意見交換が行われ、感染症対策や防災対策、詐欺被害防止対策、認知症ケアなど、具体的に運営やサービスに活かされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市が実施する説明会や研修等に参加している。又、必要に応じて市役所、包括支援センターに電話以外にも直接出向いて、助言や指導を受けている。	市の担当者には訪問や電話での、入退所の手続・認定更新の手続等の相談に助言・対応して頂くなど連携を図りサービス向上に取り組んでいる。また、グループホーム連絡協議会や市が主催する各種の説明会・研修会等にも積極的に参加し、意見や情報の交換もよく行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設け、規程に基づいて勉強会などを行っている。朝礼、終礼時など、メディアの報道等を受け、事例を挙げ身体拘束に関心を持ち身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	居室や玄関等の施錠は原則として行なわないケアに取り組み、利用者が外出しそうな様子を察知した場合は、職員が連携して見守りや声かけを行っている。特に言葉をさえぎることや気持ちの押さえつけ・行動制限の防止には、日々のケアの中や朝礼・終礼、職員研修会でニュースなどの事例も活用しながら繰り返し話し合って理解を深めると共に、安全確保やその人らしい暮らしを支援するケアへの反映が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待の講演会や研修会に機会あるごとに出かけ、全職員にも報告し、又勉強会などを通じて、虐待防止に関する理解と実践に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	個々人の必要に応じて家族の相談に応じたり、参考になる文献を提供したりして一緒に考えて行けるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、重要事項説明書に基づき丁寧に説明し、特に医療行為が必要になった時の対応、退去を含めた事業所の方針について理解・同意を頂いてから契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者と常に信頼関係を築く様に努力し、不満などあれば何時でも自分の気持ちが表出できるように支援する。意見箱設置、家族会、面会時、カンファレンスの際に意見や苦情など聞く機会を設けている。	利用者の思いや意見は日常の会話や見守りなどで把握に努め、ご家族とは訪問時の対話や家族会・ホームの行事等の際に話しやすい雰囲気作りに努めて多くの意見を頂いている。内容は毎日の朝礼や終礼、月1回の職員会議で共有を図り、必要な対応を検討・実行すると共に、ご家族には電話や訪問時の対話で速やかに報告して信頼関係の構築に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月例職員会議の時、朝礼、終礼等に職員の意見や提案を聞く様にしている。	管理者自身が日常的に話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から職員とのコミュニケーションを大切にしている。毎日の朝礼・終礼のほか、日々のケアの中、毎月の職員会議等を通じて利用者のケア並びに業務に関する職員の意見や提案・気づきを聞き取り、業務改善やサービス向上に職員とともにつなげている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は施設長、理事長と常に連携を取り、職員の勤務状況を把握し、給与・休日面でも職員の働きやすい環境作りに心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の開催のお知らせなどは連絡簿に綴り、職員に周知出来るようにし、見たらサインを入れるようにしている。研修に参加したら研修内容を職員会議の時報告し、職員全員で勉強するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島グループホーム協議会、介護支援専門員協議会等に入会し、積極的に研修には参加している。地域のお施設、医療機関へも広報を配るなどして訪問し、サービスの向上に役立てている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状況と本人の人柄などを把握できるように努め、本人や、家族などから話を聞き、不安や問題点を把握し、理解するようにして、信頼関係が築かれるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のどういうことに困っているのか会話の中で良く聞き取り、そのニーズに応えられるように、これまでのご家族の生活歴、家族関係を把握し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人やご家族の思いを受け止め、調整し今の状況の改善に向けた支援の提案等をしている。必要や希望があれば、他サービスに繋げるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の日々の言動に常に興味を持ち、言葉の裏側にある思いをくみ取り、ともに暮らしの中で共感し支えあえるような関係作りに努めている。入居者に教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族連絡表」を送付する中で、日々の暮らしや生活の中での出来事や気づきを家族と共有するように努め、家族も行事などへ参加して頂き、一緒に支え合っているように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の支援を得て、墓参りや外食等へ出かけている。又何時でも知り合いの方々の面会が気兼ねなく出来るような雰囲気作りを心がけている。	利用者の知人などの来所時には、ゆったりと過ごせるように支援することをはじめ、電話や手紙の取り次ぎも行っている。また、併設のデイサービスに来られる利用者の友人が訪ねて来られる機会も多い。ご家族の協力も得ながら墓参りや外食に出かけられるように適切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で過ごす時間を大事にし、一人一人が孤立しないように、毎日のお茶の時間には職員も中に入り、利用者同士のコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされる利用者や家族に対しては、継続的なかわりを持つようにし相談などに応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの会話の中で、言葉や表情から隠れた思いを推し測り、本人の意向にそえるように、あるいはご家族との意向との接点が図れる様に本人本位に調整している。	利用開始時の利用者本人や家族からの聞き取り情報や利用者アンケート、日々の関わりを通して言葉や表情などから、利用者の思いや意向を可能な限り把握するように努めている。これらは朝礼や終礼等で共有を図り、必要な対応を検討して利用者本位の支援に結びつくように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で本人やご家族の生活歴などを聞き取るようにしている。又入所後も折に触れ話の中で情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、経過記録等を通して利用者の生活リズム（食事、排泄、生活習慣等）を把握するようにし、本人の出来る事に注目し、全体像をつかむようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って三ヶ月に1回は評価を行い、最低でも六ヶ月に1回は家族も含めカンファレンスを行っている。カンファレンスではその都度、課題を見直し、それぞれの意見を交換し、ケアプランに活かすようにしている。	本人、家族も参加した担当者会議を開催し、受診の際の主治医の意見も取り入れながら計画を作成している。ケアの経過は支援経過記録に詳しく記述され、それらを基に3ヶ月毎に評価を行い、必要な修正を施すとともに、状態変化に対応した話し合いのもと計画修正を適切に実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子や実施したケアは経過記録に留め、職員間で情報を共有しながら、日々のケアや介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員もその時々変わるニーズに応えられる様に、隣接のデイサービスのパワーリハの利用やマッサージ等を通して、支援やサービスに繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察消防等協力支援体制がある。又、協力医療機関との連携を保ち、何かあれば、相談し健康に暮らせるように支援している。ボランティアも積極的に受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族等の希望を大切に、協力機関の病院や他病院へ継げられるように連携を図ると共に、希望があれば訪問診療も受け入れている。	利用前の受診の経過を把握し、本人や家族の希望するかかりつけ医への家族による通院もしくは定期的な訪問診療を適切に支援している。受診状況や必要な対応についても職員をはじめとする関係者で情報の共有が図られ、家族とも適切に連絡が取られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々の利用者の様子を見聞きし、介護職員などからも相談を受け、情報を共有する事で、個々の利用者が適切な受診や治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの本人の身体状況・レベル・こだわりなどを情報提供し、入院中の生活が円滑に行くように支援している。又家族や医療関係者との連携が取れるように努め、退院時にはサマリーなどを頂き、ホームの生活に早く戻れる様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に対する指針について契約時に説明している。そして事業所で出来ることを説明し、家族と共有するようにしている。	重度化や終末期のケアについては、「看取りに関する指針」で入居時に利用者と家族に十分に説明を行い同意を得ている。本人や家族の思いや状況の変化に応じて十分に話し合い、医師・看護師・職員で密に連携を図り、ホームとして様々な状況に可能な限り支援・対応できる体制を築いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアル化している。又年間行事計画の中で定期的に基礎救急救命講習会を開催して、心肺蘇生法、AEDの使い方など職員が習得している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練は年2回実施し、夜間を想定した避難訓練も実施している。万一、火災・災害発生時は、近隣の住民の方からの応援体制を取っている。職員が地域の消防分団に入団し地域との協力体制もとれている。</p>	<p>消防署との連携による年2回の火災・地震を想定した避難訓練を地域住民の参加も得て、隣接の小規模多機能ホームやデイサービスと共に実施している。消防分団に団員として活動している職員もおり、地域との協力体制を築いている。災害時に備えた自動通報装置やスプリンクラーなどの設備も充実しており、食料や飲料水の備蓄も問題はなく、救命講習をはじめとした研修も適切に行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を尊重し、接し方や声掛けに気をつけ、プライバシーを損ねないような対応を心がけている。排泄や入浴時プライバシーに配慮するよう指導している。	利用者の人格を尊重し、日常のケアに際して尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行わないように、朝礼や終礼・勉強会等を通じて方法を共有して実践に取り組んでいる。利用者の個人情報記録や居室の保護にも十分配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を言葉に限らず、動きや目の表情などで読み取り、その方の能力に合わせた話しかけを行い、本人の自己決定を引き出すような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムや、ペースに合わせつつ、周りとの協調性も大事に出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個人の選択を尊重しつつ、さりげなく助言し、出来るところはしていただき、出来ないところを整えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を五感に訴え、食事が楽しみとなるように心がけている。嫌いな物、食べられない物は出来る範囲で変わりの物を提供している。台拭きや後片付けなど個人の能力に応じていただいている。	利用者に食卓の準備や後片づけなど、できることは手伝ってもらうことで自立を促し、会話しながら和やかに食事できるように工夫している。また、利用者個々の好みや健康状態に応じたメニューや調理方法にも対応し、季節の行事食や誕生会等の特別メニューや弁当持参の花見、家族との食事会など、利用者の楽しみにつながる工夫も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握し、一人ひとりの状態に合った摂取が出来るように支援している。夏場は特に水分補給に注意し、ポカリなどで補給できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、必要に応じて介助をしている。義歯の訪は定期的に洗浄剤での除菌を図っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努め、定期的にトイレ誘導を行う事で、排泄の失敗を少なくし、トイレで気持ちよく排泄が出来るように支援している。	利用者の様子観察や排泄チェック表を活用し、利用者個々のリズムを把握して、誘導や声掛けを通じて排泄の自立のための支援を行っている。職員は朝礼や終礼等で利用者個々に合った取り組みを話し合い、羞恥心や不安の軽減にも十分配慮して支援に反映するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、食事の工夫や適度な散歩等運動を心がけるように支援している。特に便秘がひどいときは、主治医と相談し、緩下剤で調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一応入浴の曜日や時間帯は決めているが、一人ひとりの希望やタイミングを考慮して、翌日に入浴していただく等、柔軟な対応を心掛けている。	利用者の健康状態に配慮しながら、場合によってはシャワー浴や清拭に変更することの対応を含め、基本的には週3回の入浴をゆったりと会話しながら楽しめるように支援している。入浴を拒否される場合には、職員の交替や繰り返し声かけするなど工夫して気分転換を図るようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	又個人のニーズ、状況に応じて休息を支援している一方、レクや体操など日中の活動を活発にすることで、昼夜逆転を防止している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに病歴や内服薬の状況を綴じ、何時でも見られるようにしている。症状の変化があれば、上司・看護師に連絡し主治医の判断を仰ぐようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>レクや手伝い、洗濯物たたみなどの中で一人ひとりの力を活かせるようにしている。「いただきます」等の音頭とりをしてもらう等、役割感を持っていただいている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日はホームの庭を散歩したり、ドライブに行ったりして気分転換を図っている。本人の意向があれば、家族と墓参りに行ったり、外食されたりと望まれれば、出来るだけ出かけられるように支援している。</p>	<p>利用者の健康状態や天候を見ながら、本人の希望に沿って散歩や外気浴、近隣のドライブなどに出かけている。年に数回は、地域の行事や催し物をはじめ季節の花見やソーメン流し等も支援している。また、ご家族の援助のもとでの墓参りや親戚との交流、外食なども勧めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の力量に応じて対応している。必要に応じて預かり金から出している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取次ぎを支援し、又必要があれば電話をかけられるよう仲介している。手紙が来たら本人とともに感情を分かち合うようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンや照明で光の調節を行い、また不用意に大きな音を出さないように配慮している。リビングには皆さんで作成した壁画など季節感のあるものを掲げている。対面式のキッチンで調理の状況が見え、食欲をそそる音や匂いが漂い生活感を大事にしている。	リビングや玄関には季節の花が、壁には利用者と職員が共同で作成した季節感ある貼り絵などが飾られ、落ち着いた雰囲気の中で静かにゆったりと過ごせるように工夫されている。利用者にとって不快に感じる音や臭いなどは感じられず、室温や湿度調整にも気配りがなされ、自由に気持ちよく過ごせるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの一角にはソファが置いてあり、入居者やご家族がくつろげるスペース作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファやテーブル、パイプハンガーなど持ちこまれ、使い勝手を良くする等、居心地良い空間作りをしている。又家族の写真を飾られている方もある。	居室は広く明るく、ホームが準備したベッドやタンス・エアコンの他に、本人や家族の希望に合わせて、利用者が使い慣れた生活用品や小物等を持ち込んで頂き、自分の部屋として落ち着いて過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口にはご本人の写真と名前、花の絵を掲げ、目印になるようにしている。トイレは分かりやすいように、字と絵文字で表示している。ローカやトイレ、フロ場には手摺が施され安全に考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「地域に信頼され人々との交流が自由に出来るように支援します」という理念をホールに掲げ、毎日朝礼で唱和し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入し、互いの催し等には積極的に参加することでお互いに交流を図り、信頼関係を築いている。3ヶ月毎の広報紙を回覧板やポストに入れるなどして地域にも配布している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域で認知症や高齢者の介護で悩まれている方等、運営推進会議の時や、又何時でも相談に応じ、一緒に考えるようにし少しでも役に立つ事が出来るようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活用し、ホームの状況報告、評価への取り組みなどを報告すると共に、地域や家族からの情報や助言も大切に、業務の改善に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	鹿児島市が実施する説明会や、研修などに参加している。また、必要に応じて市役所に電話で問い合わせたり、出向いて助言や指導を頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設け規程に基づいて勉強会などを行っている。職員会議や日々の申し送りの中で、身体拘束に関して事例を通して職員皆で共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会などを通じて、虐待防止に関する理解と実践に努めている。又朝礼終礼で事例など紹介しながら、再発防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会や事例を通して権利擁護を身近な事として捉えられるようにし、個々人の必要に応じて家族と共に考えられるようしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、重要事項説明書に基づき丁寧に説明し、特に医療行為が必要になった時の対応、退去を含めた事業所の方針について理解・同意を頂いてから契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者と常に信頼関係を築く様に努力し、不満などあれば何時でも自分の気持ちが表出出来るように支援する。面会時やカンファレンス、家族会等の際意見や苦情など聞く機会を設けている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月例職員会議の時等に職員の意見や提案を聞く様にしている。取り入れられる改善点があれば、実施に繋げている。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は理事長、施設長と常に連携が取れ、職員の勤務状況を把握し、職員の働きやすい環境作りを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の開催のお知らせなどは連絡簿に綴り、職員に周知出来るようにし、見たらサインを入れるようにしている。研修に参加したら研修内容を職員会議の時報告し、職員全員で勉強するようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>鹿児島グループホーム協議会、介護支援専門員協議会等に入会し、積極的に研修には参加している。同業者と連携を図り、職員のスキルアップに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状況と本人の人柄などを把握できるように努め、本人や、家族などから話を聞き、本人の思いや不安等問題点を把握し、本人の気持ちに沿えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人が困っていることを話の中で良く聞き取り、そのニーズに応えられるように、これまでの家族の生活の経緯、家族関係を把握するように努め、お互いに信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人やご家族の思いを受け止め、調整し、今の状況の改善に向けた支援の提案等をしている。さらに必要や希望があれば、他サービスに繋げるように努めている（訪問マッサージ等）		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の日々の言動に注目し、ともに暮らしの中で共感し支えあえるような関係作りに努めている。できる所を大切に、本人が自信を持って生き生きと生活ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族連絡表」を送付する中で、日々の暮らしや状況の中での出来事や気づきを家族と共有するように努め、家族も行事などへ参加して頂き、一緒に支えていけるように努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも知り合いの方々の面会が気兼ねなくでき、落ち着いて話ができる雰囲気作りを心がけ、又家族の支援を得て、墓参りや食事、法事などへ出かけられるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係やコミュニケーションは大事にし、又一人一人が孤立しないように、毎日のお茶の時間には職員も中に入り、コミュニケーションを促すようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要とされる利用者や家族に対しては、継続的なかわりを持つようにし相談などに応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中の会話や表情の中で隠れた思いを推し測り、本人の意向に沿えるように、あるいはご家族との意向との接点が図れる様に本人本位に調整している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談の中で本人やご家族の生活歴などを聞き取るようにしている。又入所後も折に触れ話の中で情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック表、経過記録等を通して利用者の生活リズム（食事、排泄、生活習慣等）を理解するようにし、その日の本人の心身状態把握に努めるようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿って三か月に1回は評価を行い、最低でも六か月に1回は家族も含めカンファレンスを行い、課題を見直すようにし、お互いに話し合い、ケアプランに活かすようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者の様子やケアの実践は経過記録に留め、職員間で情報を共有しながら、日々のケアや介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員もその時々変わる状況に、柔軟に対応できるようにし、事業所としても他支援やサービスに繋げている。ご家族の希望があれば訪問診療にもつなげている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察・消防等協力支援体制がある。又、町内会にも入会し、運動会、生涯学習発表会、夏祭り等お互いに参加し合い交流を図れるように努力している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切に、協力機関の病院や他病院への受診に継げられるように支援し、希望があればかかりつけ医の訪問診療や往診等受け入れられるように支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は日々の利用者の様子を介護職員などからも見聞きし、個々の利用者が適切な受診や治療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの本人の身体状況・ADL・こだわりなどを情報提供し、入院中の生活がスムーズに行くように支援している。又家族や医療関係者との連携が取れるように努め、退院時にはサマリーなどを頂、ホームの生活の体制作りに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に対する指針について契約時に説明している。そして事業所で出来ることを説明し、家族と共有するようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアル化し、又掲示している。また、年間行事計画の中で年2回は指導員による人工呼吸・AEDの使い方等講習を受け職員が習得できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練（夜間を想定した避難訓練も実施）には地域の方々にも参加をいただいたりして地域との協力体制を築いている。職員が地域の消防分団に入団し地域との連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を尊重し、接し方や声掛けに気をつけ、プライバシーを損なわないような対応を心がけている。排泄時の声掛け、施錠には気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を言葉に限らず、動きや目の表情などで読み取り、その方の能力に合わせた話しかけを行い、本人の自己決定を引き出すような支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムや、ペースに合わせてつつ、周りとの協調性も大事に出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	個人の選択を尊重しつつ、さりげなく助言し、出来るところはしていただき、出来ないところをお手伝いするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を五感に訴え、食事が楽しみとなるように心がけている。嫌いな物、食べられない物は出来る範囲で変わりの物を提供している。個人の能力に応じて出来る事はしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を把握し、一人ひとりの状態に合った摂取が出来るように食事の工夫や水分補給に注意し、ポカリや嗜好品などで補充できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、必要に応じて介助をしている。義歯の方は日曜日は必ず夜勤帯で除菌し、その他必要に応じて除菌している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するように努め、排泄の失敗を少なくし、トイレで気持ちよく排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、食事の工夫や適度な運動を心がけるように支援している。特に便秘がひどいときは、主治医と相談し、緩下剤で調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一応入浴の曜日や時間帯は決まっているが、一人ひとりの希望やタイミングがあるので、柔軟な対応を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクや体操など日中の活動を活発にすることで、昼夜逆転を防止すると共に、個人のニーズ、状況に応じては休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに病歴や内服薬の状況を綴じ、何時でも見られるようにしている。症状の変化があれば、上司・看護師に連絡し主治医の判断を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクや手伝い、洗濯物畳などの中で一人ひとりの力を活かせるようにしている。入居者様に「いただきます」の音頭とりをしてもらうことで尊厳を保持していただくなど配慮している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日はホームの庭を散歩などして外気浴をし気分転換を図っている。家族と墓参りに行ったり、家を見に行かれたり望まれば出来るだけ出かけられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人の力量に応じて対応している。必要に応じて預かり金から出している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の取り次ぎや、掛けるのは個人の力量に応じて対応し、支援している。手紙が来たら本人に直接渡すと共に職員も感情を共有するようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カーテンや照明で光の調節を行い、音楽、テレビの音も不快感がない様に配慮している。ホールには皆さんで作成した壁画など季節感のあるものを掲げている。対面式のキッチンで調理の状況が見え、食欲をそそる音や匂いが漂い生活感を大事にしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングの一角にはソファが置いてあり、入居者やご家族がくつろげるスペース作りをしている。窓際には椅子を置き、外の風景が見える様な配慮をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルや椅子、パイプハンガー、個人の希望に応じて使い勝手や居心地良い空間作りをしている。又家族の写真や孫さんの書いた絵など飾られている方もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ローカやトイレ、フロ場には手摺が施され安全を図っている。居室の入り口には名前と花の絵、写真を掲げ、目印になるようにしてしている。トイレは入居者が分かりやすいように、ハッキリとした字と絵文字で表示している。		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない